推奨学年：
幼保
第1学年～

「わらべうたあそび」

育てたい力

・わらべうたのよさや面白さを感じ取りながら、即興的に言葉のリズムや旋律を生かして音楽あそびをする。
・わらべうたあそびを通して、友達と一緒に音楽活動を楽しむ。

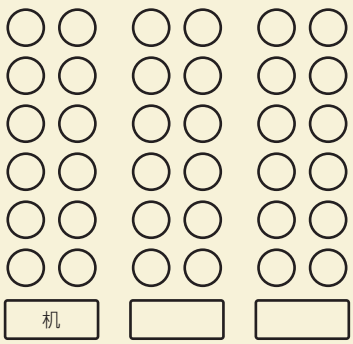
教材・教具

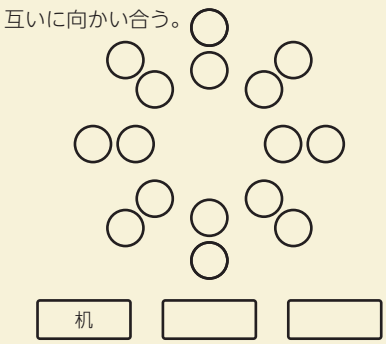
- **立奏木琴、立奏鉄琴、グロッケンなど**
  ※学校にオルフ楽器（音板の取り外しが可能な楽器）、一人１音を担当できる楽器（トーンチャイム、ミュージックベルなど）があれば活用する。
- **トライアングル、カスタネット、タンブリン、すずなど**
- **絵描きうた用の画用紙と筆記用具、またはタブレット、縄跳び用の縄など**
- **第１学年の鑑賞用CD**

場の設定

・絵描き歌の際は、通常の机の配置をする。
・体を動かす活動では、机を教室の後ろに下げ動けるスペースをつくり、あそびによって子供の位置を決める。あるいは、広いスペースのある別の場所に移動する。楽器を使う場合は、下げた机に楽器を置く。

＜例＞





・縄跳びあそびをする際は、体育館や校庭などで行うこともできる。

活動内容

1 絵描きうた「さんちゃんが」（「小学生のおんがく１」P.66）

音源（鑑賞用CD）を聴きながら、歌ったり絵を描いたりして絵描きうたの面白さを味わう。

1「さんちゃんが」を聴きながら、歌を覚えて絵描きうたを楽しむ。

これから聴く歌は、みんながよく知っている歌かもしれません。知っていたら心の中で歌いながら聴いてください。何かしながら歌う歌なのですが、それは何でしょう。３回聴くので、１・２回目はどんなことをするのか知っている人も心の中で考えながら聴いてください。知っている人やこうかなと思う人は、３回目に手で表しながら聴いてください。

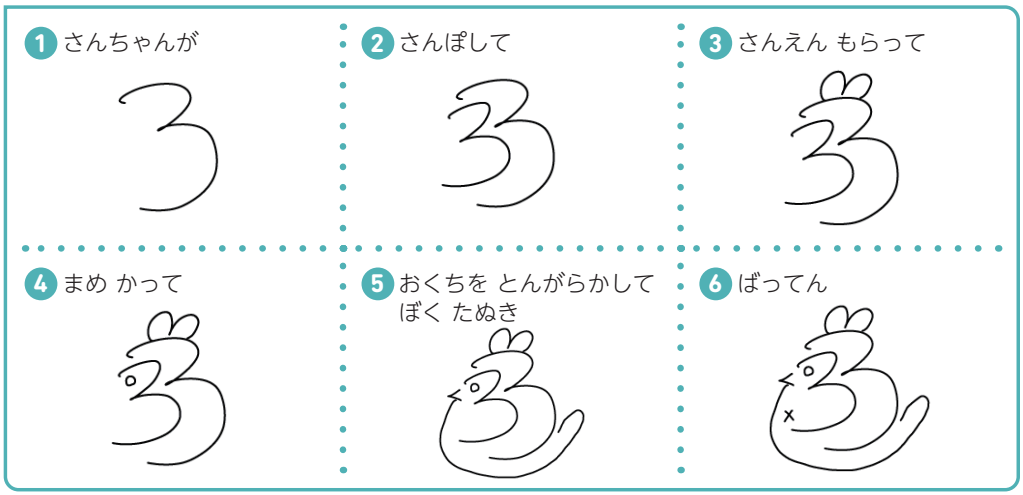
初めて聴いた歌だよ。何をしながら歌うのかな。

「ミミズが三匹やってきて～」の歌に似た感じがするね。

お姉ちゃんと絵を描きながら歌ったことがある。

知っていた人も知らなかった人もいましたね。
これは、たぬきの絵を描ける絵描きうたです。
聴きながら歌に合わせて、空中で絵を描いてみましょう。
知っている人は、知らない友達に教えてあげるつもりで描いてください。

＜「さんちゃんが」のあそび方の例＞



腕を大きく動かして、友達に分かるように描いてください。

ポイント

・指導者は、電子黒板や実物投影機などを活用して描くようにします。

・学級全体で２～３回繰り返し描きながら歌ったら、あとは、次のように学習形態を変えてあそぶようにします。

1）ペアになり、一人は絵を描き、もう一人は歌を歌いながら相手の様子を見て、互いのよさを認め合います。

2）三人～四人のグループになり、歌いながら描く人と、歌いながらその様子を見る人とに分かれて表現します。その際、見ている人は描いている人が大きく描いているかどうか、声を出して歌いながら描いているかなどに注目します。

2 画用紙（B5の1/2サイズ）、またはタブレット端末に描きながら「さんちゃんが」を楽しむ。

歌いながら空中に絵が描けたようなので、今度は画用紙（タブレット端末）に描きながら歌いましょう。隣の友達が歌いながら描けていたら拍手してあげてください。

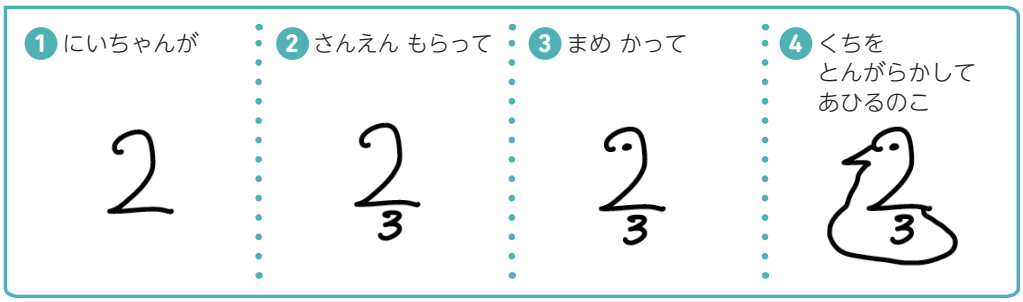
Aさんは、歌と絵がぴったり合うように描いているなあ。

歌いながら絵を描くのって楽しいな。ほかの歌でもできないかな。

3 知っている絵描きうたやオリジナルの絵描きうたを紹介し合って楽しむ。

おうちの人に聞いたり、保育園や幼稚園で歌ったりしたことのある絵描きうたを、グループで教え合ってください。「こんなのつくれるね」と自分たちでつくってもいいですよ。

＜「にいちゃんが（あひるのこ）」のあそび方の例＞



ポイント

・伝承されている「絵描きうた」は、ほかにも「棒が一本あったとさ（コックさん）」や「ミミズが三匹よってきて（たこ入道）」などが挙げられます。ここでは、日本に古くから伝わる様々なわらべうたと同じ音階でつくられた歌を紹介したり、オリジナルの絵描きうたを即興的につくったりするようにします。

・最近は、アニメソングに合わせて絵を描く「キャラクターの絵描きうた」があったり、オリジナリティーあふれる「絵描きうた」が紹介されたりしています。伝承されている絵描きうたに限らず子供の世界と関わる様々な「絵描きうた」に親しむことで、歌－言葉－絵－動き（手で描く）－生活という、音楽と結び付いた総合的な創造力を培うことができます。

・幼保の園児たちと関わる活動を行う際には、一緒に歌いながら絵を描いたり、互いに知っている「絵描きうた」を紹介し合ったりして交流します。交流後は互いに教えてもらった「絵描きうた」を歌いながら絵を描いたり、新しい「絵描きうた」をつくったりして、休み時間に一緒にあそぶ時間を取るなどすると、交流が深まるとともにスタートカリキュラムの一端にもなります。

2 縄跳びうた「おおなみ こなみ」（「小学生のおんがく１」P.67）

音源を聴いて、縄跳びであそんでいる様子を思い浮かべたり、歌いながらあそんだり、即興的な伴奏を加えたりして、縄跳びうたの面白さを味わう。

1 「おおなみ こなみ」を聴き、縄跳びの様子を思い浮かべながら歌を覚える。

体育の時間でも縄跳びをしますが、これから聴く歌は、縄跳びのときに歌う歌です。知っている人もいると思いますが、どんな跳び方をしているのかな。一人で跳んでいるのかな。歌える人は、２回目に一緒に歌ってください。

＜あそび方の例＞

「おおなみ こなみ」
・二人で縄を持つ。
♪おおなみ こなみ（縄を右左に振る）
♪ぐるりと まわして ねこの（縄を３回回す）
♪め（縄を止め、跳んでいる子供は縄をまたぐ）

この歌知ってるよ。でも、縄を回すところで跳べるかな。

2 音源に合わせて歌いながらあそぶ。

1）音源に合わせて歌詞を確かめながら歌う。

みんな、もう歌えているようですが、歌詞を確かめながら歌ってみましょう。

最後が「にゃんこの目」って覚えてた。

「ねこ」と「にゃんこ」とどちらのほうが歌いやすいですか。今日は、「ねこ」で歌おうか。

「ねこ」だと、「ねーこ」と、「ね」のところがのびるんだね。

2）代表のグループが前に出て、縄を回したり跳んだりする動きをしながら歌い、ほかの子供は一緒に歌う。

縄を持ったつもりで、実際に跳んでみましょう。四人のグループでそれぞれ役割を決めてください。

縄を持つ人は必ず二人だね。残りの二人は順番に跳んでもいいし、二人一緒に跳んでもいいね。できるかな。やってみたいな。

代表になってくれそうなグループがたくさんいますが、ここでは２グループにお願いします。ほかの人は、音楽をよく聴きながら縄の動きに合わせて歌ってください。

縄の動きが音楽によく合っています。「こなみ」のときに少し小さく動かしていたから、歌もちょっと弱く歌うといいのかな。

２回ずつ跳んでもらいました。歌い方と縄の回し方が合っていると、気持ちよく感じますね。みんなも縄を見ながら、声を合わせて歌えましたね。

ポイント

・音源をよく聴きながら歌うことに慣れたら、音源なしで歌と縄跳びとを合わせるようにします。その中で、縄の動きや跳び方と歌との関係に気付いた子供の意見を取り上げ、動きと歌がぴったり合う表現になることを目指します。

・縄跳びをするグループは、必ず歌いながら動くように促し、縄がなくても縄があるつもりで行うように助言すると、縄が見えている感覚になり、より楽しさが増します。

・声を出さずに（サイレントシンギングで）歌い、縄跳びを跳ぶリズムと心の中の歌のリズムが合っているかどうかを確かめながら学習を進めると、実際に声を出して歌う際に、それらがより合うようになっていきます。

3「おおなみ こなみ」に合わせて伴奏をつくり、縄跳びをしながら歌う（伴奏あそび）。

大波と小波がずっと続いているような伴奏をつくりましょう。

1)「おおなみ こなみ」「ねこの め」「ぐるり」の三つの部分を、下の例のように伴奏をつくり、繰り返して歌に重ねる。

＜例＞

「おおなみ こなみ」

「ねこの め」

「ぐるり」

＜歌と伴奏の重ね方の例＞

参考音源
（タップまたは読み取り）

（小節数）→		（4）	（4）	（4）	（4）	（8）	（2）
歌				：おおなみ こなみ	ぐるりと まわして ねこの め	おおなみ こなみ ぐるりと まわして ねこの め ：	全員 ねこの め
伴奏	「おおなみ こなみ」	1回	1回	： 1回	1回	2回 ：	
	「ねこの め」		2回	： 2回	2回	4回 ：	
	「ぐるり」			： 2回	2回	4回 ：	

2) 四人のグループになり、1)を参考に楽器で「ミソラシ」の音を使ったり、旋律のリズムを生かしたりして即興的に伴奏をつくり、歌に合わせて表現する。

＜使う楽器の例＞

「おおなみ こなみ」：トーンチャイム、鉄琴（一人～二人）、トライアングル、タンブリン
「ねこの め」　　：木琴、カスタネット、タンブリン
「ぐるり」　　：グロッケン、木琴（高めの音で）、すず、カスタネット、トライアングル（響きを止めて）

「おおなみ こなみ」はトーンチャイムで、「ねこの め」は木琴で、「ぐるり」はすずで合わせてみたいな。

ポイント

・3の伴奏あそびは、わらべうたあそびから発展して、短い旋律をつくる学習や合奏あそびにつながっていきます。こうしたあそびを行っておくと、即興的に表現する活動に親しむだけでなく、歌唱や器楽での「合わせる」力も身に付けることができます。

・幼保小連携の学習では、1、2年生は縄を持って、幼保の園児が跳ぶようにしたり、1、2年生がつくった伴奏に合わせて園児が一緒に歌いながらあそぶなどといった合同で行う音楽活動を展開することができます。

・縄跳びうたの「ゆうびんやさん」「一羽のからす」などや、あそびうたの「なべ なべ そこ ぬけ」、輪あそびうたの「ひらいた ひらいた」、手まりうたの「あんたがた どこさ」など、あそび方を工夫しながら伝承されているわらべうたに親しみ、それらがもつ日本の音楽の旋律の特徴やリズム感などを感じ取るようにします。

本活動の活用の仕方

1 常時的な活動として位置付ける

絵描きうた「さんちゃんが」を、雨の日の朝の活動などで活用する。

● 画用紙（B5の1/2サイズ）またはタブレット端末を用意し、音源をいつでも聴けるように準備しておく。

1）今日の絵描きうた「さんちゃんが」を聴いて、口ずさみながら絵を描く。

2）見付けてきた「絵描きうた」を歌いながら黒板に描いて友達に紹介する。
ほかの子供は黒板の絵を見ながら、模倣して空中や画用紙に描く。

縄跳びうた「おおなみ こなみ」を楽しむ。

● 外あそびができる中休みや昼休みには、実際の縄跳び用の縄を用意し、クラスみんな、または半分に分けてあそぶ。

・「おおなみ こなみ」で、役割を交替しながら、歌ってあそぶ。

・縄跳びが上手にできない子供には、指導者が縄の回し方を示すようにし、ゆっくり左右に振ったり回したりするなど、縄を持つ子供に助言するとよい。

・「ぐるりと まわして ねこの」の部分で３回回して跳ぶのが難しい場合は、２回でも１回でもよいこととし、跳び手の実態に応じて調節するように助言する。

● 音楽学習の導入では、「縄を回しているつもり」、「跳んでいるつもり」で体を動かすようにする。

・今日の「縄跳び当番」を決め、当番の子供は跳ぶ動きをし、ほかの友達はその動きを見ながら歌う。

・伴奏の仕方が理解できたら、「縄跳び当番」と同様に「伴奏当番」を決め、縄跳びと歌と伴奏を合わせて楽しむ。

2 題材の学習と関連付ける

わらべうたあそびを通して、日本の伝統的な旋律やリズムを感じ取り、わらべうたのよさや面白さを感じ取るようにする。

1 第１学年 題材９「にほんの うたを たのしもう」（教科書P.66～69）

1）活動内容 1 に示した内容で絵描きうたあそびをする。

2）本題材の学習を行う間は、教材以外の歌やオリジナルの歌でわらべうたあそびをする時間をとる。

3）幼保の園児を招いて、一緒に「絵描きうた」であそぶ。

① １年生が絵を描きながら「さんちゃんが」を歌い、園児に見本を示す。

②園児を含めたグループをあらかじめ決めておき、そのグループ内で、園児に教えてあげるように歌う。

③知っている「絵描きうた」や同じ「絵描きうた」でも言葉や描き方が異なるものを伝え合い、園児と交流する。

④グループごとに伝え合った「絵描きうた」を歌って、発表し合う。

2 第２学年 題材９「日本の うたで つながろう」（教科書P.58～61）

1）題材の導入時に活用する。

①絵描きうた「さんちゃんが」や縄跳びうた「おおなみ こなみ」の歌を思い出しながら歌う。

「さんちゃんが」を歌いながら、黒板に絵を描いてみます。
みんな覚えていますか。幼稚園の子にも教えてあげましたね。
思い出しながら先生と一緒に歌い、空中に描いてください。

「おおなみ こなみ」は休み時間に縄跳びをしてあそんでいるよ。

ほかの歌も覚えているよ。「ひらいた ひらいた」もあそんだね。

②１年生で学習した「ひらいた ひらいた」「おおなみ こなみ」などのあそび方を思い出しながら歌ってあそぶ。

休み時間にあそんだり、幼稚園の子にも教えてあげたりしたので、みんなよく覚えていますね。それぞれ思い出しながら歌ってあそびましょう。
今日は、新しいわらべうたあそびもしますよ。

2）「なべ なべ そこ ぬけ」（教科書P.59）の学習に「おおなみ こなみ」の伴奏あそび（活動内容 2 3 ）を応用する。

①「なべ なべ そこ ぬけ」をいろいろな友達とペアやグループで歌いながらあそぶ。

＜例＞

ペアで２回続けて歌いあそぶ ⇄ ペアと「さようなら（ララララソ｜ラ ・｜）」と歌ってわかれ、「かえりましょ（ララララソ｜ラ ・｜）」と２回歌いながら移動し、新しい友達を見付けてペアになる。

ポイント

・新しいペアをつくることが難しい子供がいたら、指導者と組んだり、三人のグループをつくったりして支援します。

・「なべ なべ そこ ぬけ」は、グループの人数を増やすとどのように外向き、内向きに「かえる」か考えながらあそぶことになるので、ゲーム性があり楽しめます。このとき、「かえりましょ」をだんだんゆっくり歌って、「かえる」タイミングに合わせるか、歌う速度を変えずに「かえる」ようにするかなど、子供と相談しながら工夫すると、実感を伴って速度の変化に対する知識を身に付けることができます。

・学級全体で一つの円をつくってあそぶ方法もありますが、一重の円でも二重の円でもメンバーチェンジができるようにしてあそぶと、より一体感が生まれます。

・２年生では、輪唱も経験しているので、２小節遅れの二部輪唱をして楽しむことができます。中学年以降では、三部や四部の輪唱にしてその面白さを味わう活動にも発展できます。

② 活動内容 2 3 のように、次の３つの部分を声や楽器で繰り返して伴奏にし、歌に合わせる。

＜例＞

「なべ なべ」

「かえりましょ」（４小節にする）

「そこ ぬけ」

＜使う楽器の例＞

「なべ なべ」　　：木琴（ソとラを同時に打ってもよい）、タンブリンなど
「かえりましょ」（4小節にする）：トーンチャイム、オルガン（低めの音で）、トライアングル
「そこ ぬけ」　　：グロッケン（高めの音で）、カスタネット、すずなど

＜参考音源＞
（発展例）

（それぞれタップまたは読み取り）

＜歌と伴奏の重ね方の例＞

（小節数）→		（4）	（4）	（4）	（8）	（8）	（4）	（4）
歌（８小節）					： １回	１回 ：		
伴奏	「なべ なべ」	２回	２回	２回	： ４回	４回 ：	２回	
	「かえりましょ」		１回	１回	： ２回	２回 ：	１回	１回
	「そこ ぬけ」			２回	： ４回	４回 ：		

ポイント

・最後は、だんだん遅くしながら消えるようにします。

・自分たちで、伴奏の入る順番やリズム、旋律を替えてもよいです。

・子供の状況に応じて、歌を二部輪唱にしても楽しめます。その際は、歌い終わった順に抜けるのか、最初の組が「かえりましょ」を繰り返し歌って、あとの組と一緒に終わるのかなど終わり方を工夫するようにします。

・発展例として、伴奏の一部を拍にのらずに重ねてもよいです。

3)「名前で せんりつあそび」（教科書 P.60）の導入で活用する。

「おおなみ」も「なべ なべ」も「ラー｜ラシ｜」や「ラソ｜ラソ｜」のように、言葉によって音の上がり下がりがありましたね。自分の名前はどうですか。

私は、「まなぶ」だから ま ー な ー ぶ **だ。ひなさんはどうかな。**

隣の友達の名前ではどうなりますか。二人で考えてみましょう。順番に発表してもらおうかな。音の上がり下がりが同じ名前の人はいますか。

ポイントと解説

・第１学年では、言葉のリズムに着目し、「ことばで リズム」の学習を展開しました。第２学年では、言葉のもつ旋律性（抑揚）を生かして「名前で せんりつあそび」を行います。わらべうたあそびでその構成音に着目する活動を行っておくと、「名前で せんりつあそび」も無理なく進めることができます。

・「名前で せんりつあそび」については、第Ⅲ章で詳細な学習展開を示しています。

・幼稚園教育要領・保育所保育指針では、「表現」の内容において歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなど楽しさを味わう」ことはもちろんのこと、感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」ことも示されています。また、「環境」の内容の取扱いにおいて、文化や伝統に親しむ際には、「わらべうたや我が国の伝統的なあそびに親しむようにする」ことも明記されています。小学校の学習指導要領においては、低学年の鑑賞教材で取り扱うものとして、わらべうたが記載され、歌唱共通教材にもわらべうたとして「ひらいた ひらいた」（第１学年）や、伝統的なわらべうた風につくられた「かくれんぼ」（第２学年）が指定されています。したがって、幼保小の音楽科としての学びのつながりを考えるとき、わらべうたあそびは欠かせない活動となってくると考えられます。

・各地域には様々なわらべうたが伝承されています。また、各自治体では、地域の文化芸能を掘り起こす活動が行われています。そうした地域の活動にも目を向け、教材を広く求めていくことも大切です。我々にとって、わらべうたは現代の生活とは異なる歌詞などに違和感があるかもしれませんが、わらべうたをきっかけに、子供たちが我が国の音楽やそれを囲む様々な文化や芸術、環境への興味・関心を広げてくれることを期待しています。